



あいさつ運動

8月の中旬から外来主任看護師を中心に、朝のあいさつを正面玄関前で行う「あいさつ運動」を始めました。きっかけは、院内の主任看護師による委員会メンバーの活動でした。病院の療養環境の改善のためにはどうしたらいいかをテーマに話し合いました。さまざまな案がある中で、「あいさつ」を通して職員間でコミュニケーションを深め、明るい雰囲気をつくりたい。「あいさつ運動」を自分たちから発信してみようと考えました。

せっかくやるなら、自分たちも楽しみたいと考えました。蛍光色で目立つ腕章をつくり、院内に「あいさつは 笑顔をつくる 愛言葉」という川柳を考え、写真付きでポスター掲示をしました。毎月3日間で無理のない程度と計画して始めました。

就業前30分の時間で集まり、正面玄関前に立って、来院される患者様や出勤する職員に挨拶をする。たったこれだけのことですが、苦労もありました。早起きができなかったり、だんだんと冬に近づく白衣だけで立っているのもとても寒い思いをしました。朝から玄関に立っているため、職員からは「何かの罰ゲーム？」などと言われたこともありました。あいさつに気付かない人、携帯を見て下を向いている人など様々な人がいることもわかり、「あいさつ」が返ってこないと心配になることもありました。一方、やりがいを感じたことは、やはりすごく単純ですが元気な「あいさつ」が返ってきた瞬間でした。

わたしの中で「あいさつ運動」の成果物は、「笑顔」「気持ちの切り替え」「団結力」でした。いつもより少しだけ朝から大きな声であいさつしてみると、患者様が笑顔を返してくれたり、普段なかなか顔を合わせない同僚との笑顔でのコミュニケーションのきっかけになったり、今日一日を頑張ろうと思う気持ちの切り替えになることが実感できました。なにより運動を続けることでグループ内の団結力が高まりました。

今後も日々の生活や職場内でも「あいさつ運動」を継続し、患者様安心して診療を受けられる温かい病院作りに取り組んでいきたいと思っています。

